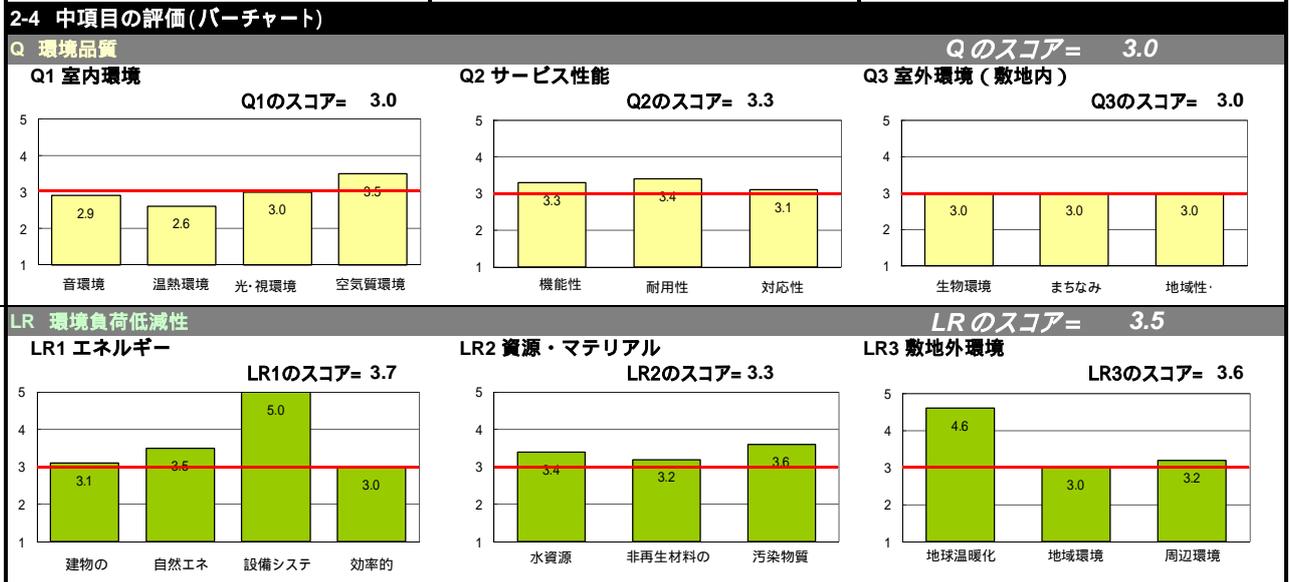
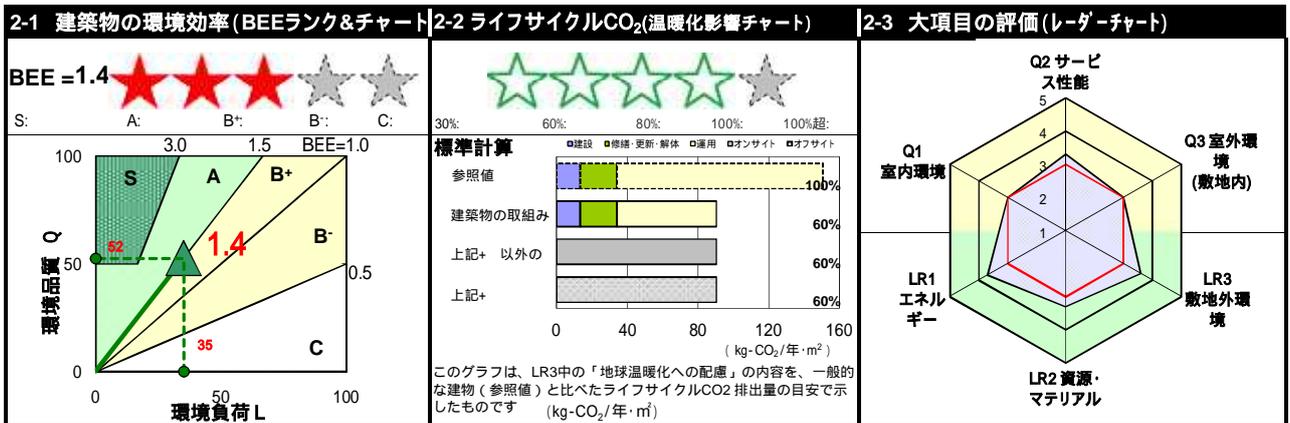


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	さがみ野ホーム	階数	地上2F
建設地	綾瀬市深谷中7丁目3136ほか	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	158人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2013年12月18日
敷地面積	7,558 m ²	作成者	金子設計
建築面積	1,941 m ²	確認日	2013年12月18日
延床面積	3,453 m ²	確認者	金子設計



3 設計上の配慮事項		
総合 建物を敷地東側に配置し、利用者の精神的負担を少なくできるよう、引越しの回数可能な限り少なくできる計画とした。前面道路側には、植栽を設けて圧迫感を和らげる計画とした。		その他 0
Q1 室内環境 利用者の居室及び共用部に、可能な限り自然光を取り入れる開口部を設け、トップライトを設けることで、自然光を確保しにくい共用部や廊下に取り入れる計画とした。一部遮音性の高い建具とし、室内環境の向上に努めた。	Q2 サービス性能 屋外には、管理しやすいよう東側にゴミ置場を配置し、搬出動線の明確化を図った。また、各便所には、肘掛け及び手摺を設け、利用者の使い勝手を考慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 既存建物の跡地を緑化し、広場とすることで、記憶の継承と共に屋外環境の充実化を図った。また、四季を感じる樹種を計画することで、時間や季節の変化を感じる空間とした。
LR1 エネルギー 設備システムの効率化を図り、LED照明を採用するなど、省エネルギー化に努める。	LR2 資源・マテリアル 舗装路盤材に再生砕石を採用している。	LR3 敷地外環境 建物高さを抑えることで、周囲への日影や風への影響を最小限となるような計画とした。また、緑化面積・地表面積を可能な限り確保することで、敷地外への熱的影響を低減している。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される